

令和 3 年 3 月 31 日

浜田市議会議長

川 野 隆 司

様

議員名

牛 尾 昭



調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため研修等を行ったので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 令和 3 年 3 月 29 日 () : ~ :

2. 研修内容 「地方議会評価モデル」の活用法

3. 研修先 日本生産性本部

4. 調査経費 2440 円

(経費内訳 2000 円、440 円)

5. 調査研究活動の概要

別紙にて。



研修先、日本生産性本部

目的、「地方議会評価モデル」の活用法

期間、令和3年3月29日。オンライン研修会。

1、これからの議会改革～議会からの政策サイクルとバック
キャスト思考～江藤俊昭

要旨、議会改革は、目的ではなくなり、第二ステージに入った。総合計画を軸に、政策提言と共に政策過程全体を討論すべきである。PDCAからPDDDCAサイクルへ、地域経営には、討議が重要で、そのことが自治法96条「住民自治の根幹」に資する。予算については、質疑—討論—表決と議会の運営を変え、一般質問を廃止。会派代表質問は、委員会代表質問に変え、追跡調査システムを構築して第三者評価を受け、討論によるきずきを得るために、成熟度評価などをするべきである。

地方議会～と議会プロフィールの活用法。

要旨、議会の組織性に着眼点を持ち、5つの視点から多角的に議会運営の状態を確認する評価基準である。議会改革のバージョンアップを目指し、住民福祉の向上のために、住民と

の意見交換をし、議会からの政策サイクルを提案する。良い成果は、良いプロセスから生まれる。活動の成果そのものではなく、取り組み方の状態を評価するという成熟度評価の考え方である。次に、議会選出監査の役目は、決算委員会の冒頭に、監査からみた決算報告をすべきであるとの事であった。考察、議会の力が地域の未来を創るものという確信と議会改革は、ゴールのないマラソンであると再確認した。

以上、報告者、牛尾昭。